

### シリーズを始めるにあたって

今日から、新しいシリーズ説教が始まります。

この秋から冬にかけて、12回にわたり、テモテへの手紙第一を学びます。

これは、パウロがテモテに宛てた大事な手紙で、このシリーズをとおしてその全貌を解き明かしていきます。

第4回で3章1-13節を学ぶ前には、奉仕、結婚生活、独身生活における聖書的な女性の役割についての主題説教を入れます。

その理由は、3章に登場する長老や執事など指導者についての教えを、OICの素敵な女性の皆さんに誤解してもらいたくないからです。

このテーマについては、女性の奉仕に関してリトリートでも何らかのかたちでお話する予定です。

このシリーズを始める前に、考えるべきことがあります。それは、テモテ第一の教えがなぜ大切かということです。

ここに、いくつか挙げておきましょう。

1. テモテ第二 3：16 を読みましょう。

#### テモテ第二 3：16

3:16 聖書はすべて、神の靈感によるもので、教えと戒めと矯正と義の訓練とのために有益です。

神のみことばをとおして働かれる聖霊の働きに心を開くなら、この手紙を学ぶことで、私たちは各々個人としても、教会全体としても成長するでしょう。

2. テモテ第一は、現代の多くの教会が教えることを放棄した書です。それは、奉仕に関わる女性について取り扱っているからです。このテーマに関するパウロの教え、そして神の教えは、現代社会、とくに西洋文化では好意的に受け止められません。ですから、奉仕に関わる女性について神のみことばが何と教えているかを理解するのが大切です。
3. 現代における多くの教会は、内向き志向で、世間のノンクリスチャンに良いイメージを与えていません。一般的に、地域社会への貢献度も低めです。パウロは、きよく生きることと福音を告げ知らせ教えることに専念するようにと勧めます。それが地域に良い影響を与えるというわけです。テモテ第一は、職場や近所の人々に良い影響を与えるきよい生き方や福音について、改めて考えさせてくれます。

有名なスコットランド人説教者マレー・マクチェインは言いました。「私の群れが何より必要としているのは、私のきよさである。」

キリストに似た者として敬虔に生きることは、平凡でつまらないように感じます。けれどもこれこそ、神に仕えるすべてのクリスチャンにとって基礎となる不可欠要素なのです。これは、賛美の奉仕、受付、片付け、リフトの祈り、など、OICの奉仕全般に当てはまります。

2000年を超えるキリスト教の歴史が教えてくれるのは、聖書を偽って教えたり教えを妥協したりすると、神の教会は墮落するということです。

テモテ第一は、この問題について強く警告します。

4. パウロは、キリスト教指導者のことを心配していました。そして、テモテが正しい聖書的な教会指導を確立することを望んでいました。教会員として、また役員として、私たちは指導について神の教えにオープンでなければなりません。私たちがそうすれば、神は必ず私たちに祝福してくださいます。
- テモテ第一 3 章は、OIC の将来のリーダーシップを形作ることもできる重要な教えです。教会の興亡は、指導者の質にかかっています。ですから、私たちは正しい教えを得なければなりません。

他にも理由はありますが、ここに挙げたものが重要な理由です。  
では、シリーズ第一回のメッセージを始めましょう。

### テモテ第一 1 : 1-7, 6 : 20-21

- 1:1 私たちの救い主なる神と私たちの望みなるキリスト・イエスとの命令による、キリスト・イエスの使徒パウロから、
- 1:2 信仰による真実のわが子テモテへ。父なる神と私たちの主なるキリスト・イエスから、恵みとあわれみと平安とがありますように。
- 1:3 私がマケドニヤに出発するとき、あなたにお願いしたように、あなたは、エペソにずっととどまっていて、ある人たちが違った教えを説いたり、
- 1:4 果てしのない空想話と系図とに心を奪われたりしないように命じてください。そのようなものは、論議を引き起こすだけで、信仰による神の救いのご計画の実現をもたらすものではありません。
- 1:5 この命令は、きよい心と正しい良心と偽りのない信仰とから出て来る愛を、目標としています。
- 1:6 ある人たちはこの目当てを見失い、わき道にそれて無益な議論に走り、
- 1:7 律法の教師でありたいと望みながら、自分の言っていることも、また強く主張していることについても理解していません。

6:20 テモテよ。ゆだねられたものを守りなさい。そして、俗悪なむだ話、また、まちがって「靈知」と呼ばれる反対論を避けなさい。

6:21 これを公然と主張したある人たちは、信仰からはずれてしまいました。恵みが、あなたがたとともにありますように。

### はじめに

この手紙の最初と最後に、エペソの教会のおもな問題が記されています。

それは、教会に偽りの異なる教えが持ち込まれたことです。

パウロは、使徒 20 : 29-30 でエペソの教会の長老たちを励まし、このようなことが起こる危険性について警告しました。

### 使徒 20 : 29-30

20:29 私が出発したあと、狂暴な狼があなたがたの中に入り込んで来て、群れを荒らし回ることを、私は知っています。

20:30 あなたがた自身の中からも、いろいろな曲がったことを語って、弟子たちを自分のほうに引き込もうとする者たちが起こるでしょう。

ここで注目していただきたいのは、偽りの教えには、内部から起こったものと外から持ち込まれたものがあることです

インターネットや教会以外の場所で得た教えには十分注意してください。

多くのパウロの手紙では、最初と最後を読めば、彼がおもに懸念していたことがたいていわかります。

テモテ第一ではそれが明らかです。ですから今日は、手紙の最初と最後を学ぶことにしましょう。

## たとえ

日本では、多くの人が新築の家やマンションに住むのを好みます。

そうでない場合は、リフォームされた物件を選びます。

日本で敷金があるのはそのせいだと聞いたことがあります。

家やマンションに住んでいると、気づかないうちに経年劣化が起こります。

棚の裏にカビが生えたり、カーテンや壁紙が日光で色褪せたり、窓の建付けが悪くなったりします。そういういろんなことが出てきても、それほど気にしません。

教会生活でも同じことが言えます。健全だった教会が年を経て「劣化」してしまうことがあります。しかも、そんなことが起こっていると誰も気づかないのです。

そしてしばらく後になって、教会をあるべき姿へと立て直すために行動を起こさなくてはならなくなります。

テモテ第一の焦点は、教会を本来の姿に回復することです。

今後 1-2 年の間に、OIC も神が望まれる教会になることを私は祈り願っています。

テモテ第一は、その課題に取り組むために役立つでしょう。

これは、今ここにいる私たちにとって大きな課題ですが、同時に楽しみな未来でもあります。

今日の聖書個所の教えは、3 つに分けて説明していきます。

### 1. 偽りの教師と偽りの教えに気をつける。 (1:3-4,7,6:20)

パウロはまず、自分が神のみことばを教える資格についてテモテに改めて語ります。そして、テモテが新生した真の信徒であると断言します。

パウロはイエス・キリストの使徒でしたから、神のみことばを教える資格がありました。

現代には使徒はいません。聖書をとおして語られる神のみことばが、クリスチャンの必要なすべての教えを網羅しています。ただし、それは聖書が正しく教えられているという前提での話です。

残念ながら、現代の使徒と自ら名乗る巡回伝道者がいます。これは偽りの教えなので、その正当性を疑わなければなりません。

この個所でまず目に留まるのは、パウロが偽りの教えを見極めていることです。

偽りの教えについては、その誤りを見つけるのが大事です。聖書をよく知っていて、しっかり教えられていないと、すぐにはわからない場合もあります。

では、エペソの教会での問題は何だったのでしょうか。

今日の聖書個所によると、誤った教理、空想話や系図への執着などです。

ギリシャ語の単語と、この状況の背景を調べてみて、当時この教会にあった偽りの教えには、ふたつの側面があったことがわかりました。

まず、ユダヤ人が書いたふたつの書物に基づく教材への傾倒です。

その書物は、「ヨベル書」とフィロンの「聖書古代史」です。

このふたつの書は、パリサイ人によって書き換えられた旧約聖書の一部です。

その教えは律法的で、律法の遵守が救いを得る道であると教えました。イエス・キリストの死と復活による真の恵みの福音を無視するものでした。

次に、「グノーシス主義」と呼ばれる歴史に記録の残る偽りの教えです。この教えには、人を救いに導く特別な知識を得ることが含まれます。「グノーシス主義」の教えにもいろいろありましたが、特別な知識という点は共通していました。

これは、異なる福音であり、真の福音ではありません。

現代にもこれに似た偽りの教えが存在しますが、21 世紀の考え方に合わせた現代風の教えとなっています。

## 適用

OIC で偽りの教えが起こった場合に、指導者たちがそれを見分けられることが大事です。OIC は、インターナショナルな教会で、いろんな人が出入りしています。

私はこの教会に就任してから、いくつか偽りの教えを見つけて、それを正そうとしてきました。

後日学びますが、教会にある偽りの教えを見分けて対処するのは、長老の責務のひとつです。ですから、OICの教会員全員が偽りの教えに警戒し、何かあればすぐに私に報告するようにしてください。

偽りの教えや誤った教えは、現代の教会が抱える大きな問題です。これは、人が聖書を読んでいないこと、聖書を知らないこと、福音をしっかりと理解していないことがおもな原因です。ですから、まず注目すべき点は、パウロが偽りの教えをすぐに見つけたことです。

エホバの証人や末日聖徒（モルモン教）のような異端の偽りの教えを見分けるのは比較的簡単です。

彼らには独自の經典や神学があるので、聖書と比べてどこが間違っているか見つけることができます。

福音派の中で現れる偽りの教えに気づくのはそれほど簡単ではありません。

現代の偽りの教師は、聖書を文脈から切り離して引用し、偽りの教えに引き込むきっかけとして利用します。

## 2. 偽りの教えが人をどう変えるか見る。 (1:4,6, 6:21)

パウロは、偽りの教えがあるときに起こることをふたつ挙げます。

それは、議論と道からそれることです。信仰の後退、バックスライドと呼ばれることもあります。

この個所を「信仰から迷い出る」とする訳もあります。

ほんの小さな部分で偽りの教えが入り込んだことで、人々が誤った道へと引きずりこまれることがあります。

そうして最終的には、その人たちは信仰から完全に離れてしまうのです。

ひとつ例を挙げてお話ししましょう。

私は16-18歳のころ、英国のダートムーアでトレーニングをしました。

そこは英国でも天候が荒れやすく、迷わずに目的地に着くのがむずかしい場所です。

陸軍や海兵隊も訓練でこの場所を使います。

このような自然のままの未開地で、場所の目印にできるのは丘の上にある花崗岩です。これらは「トー」と呼ばれています。

ダートムーアを無事に通過するには、英国の国土地理院が発行した地図と方位磁針が必要です。

この地図には、丘陵地の傾斜や、湿地、川、廃墟など目印となる地点がすべて示されています。

ダートムーアを旅するには、その地図上での自分の現在地を突き止めることから始めなければなりません。そして、そこから目的地まで方位磁針の指す方向に従って歩くのです。

ただ方位磁針と地図だけを頼りに、他のものには頼らずに、丘を登ったり下ったりします。

方位磁針の指す方角から1度でもずれた状態で15キロメートルほど歩けば、正しい位置から2キロメートルも外れることになります。

日本の地理に置き換えて話すなら、大阪から東京まで行くとします。けれども方位磁針が1度だけ狂っていました。東京に行くのと同じだけの距離を移動しても、東京ではない他県に着いてしまいます。

ですから、正確さが重要であることがわかります。

エペソの人々が直面していた危機とは、彼らがすでに福音の核心と健全な教えから外れていたことです。そして、間違った方向に進み始めていたことです。

パウロは、間違いの起こった地点まで人々を連れ戻すことをテモテに求めました。

今日の個所には、偽りの教えが論議を起こすと語ります。(4節)

6節では、「無益な議論」と呼ばれています。口語訳には「空論」とあります。

6:20には、「俗悪なむだ話、また、まちがって『靈知』と呼ばれる反対論」とあります。

偽りの教えは、人を惑わすだけでなく、教会で争いや口論、非建設的な議論を引き起こすのです。

### たとえ

車のエンジンをかけて、ギアをパーキングにしたままアクセルを踏むと、大きな音が出るだけでどこにも行けません。オートマ車ならシフトをドライブにしなければ、またはマニュアル車なら正しいギアでなければ、車は動いてくれません。

どんなに大きな音を出して、ガソリンをたくさん使っても、どこにも行けないのです。エペソの教会も騒々しく音は立てていましたが、どこにもたどり着いていませんでした。それは、偽りの教え、誤った教えが原因です。

### 適用

私たち OIC は、偽りの教えに疑いを持ち、毅然とした態度で対処しなくてはなりません。そうしなければ、信仰から離れる人が出てきます。また、分裂が起こったり、騒ぎになったりするでしょう。

## 3. 偽りの教えを正し、混じり気のない福音を守るために、私たちは何をしなければならないだろう。 (1: 4-5, 6:20)

偽りの教師を正したうえで、パウロはテモテに、偽りの教え全般に対する解決法をふたつ教えます。

まず、改めて福音に焦点を絞ることです。(1: 1,2,4)

パウロはテモテへのあいさつの中で、救いと希望をもたらす福音に重点を置きました。

2 節には、福音が恵みとあわれみと平安を与えるとあります。

パウロは 4 節で、神の働きは議論によってではなくイエス・キリストを信じる信仰によって前進すると語ります。

救いは、律法の遵守や優れた知識によって得るのではなく、主イエス・キリストを信じ続けることで得られます。(1: 7, 6: 20)

パウロは、テモテが福音をとおして新生していると確信していました。また、聖霊の働きによってきよめられ、成長しているとも確信していました。

教会が福音に焦点を定めてそのメッセージを未信者に伝えることをしていないなら、その教会の焦点はどこか他のところにずれてしまっています。

私たちにはサタンという敵がいます。サタンは常に、教会を仲違いさせ、福音という中心点から気をそらせようと頑張っています。

次に、きよさに焦点を絞ることです。(1: 5)

パウロはきよさを、正しい良心から出るきよい心だと説明します。

偽りの教えときよさは対照的です。偽りの教えは神との親しい交わりから私たちを引き離しますが、信徒ひとりひとりのきよさは、私たちを神のみそばへとさらに引き寄せ、私たちのクリスチャン生活を豊かにしてくれます。

今年のリトリートでは、聖化ときよめによるクリスチャンとしての成長がテーマです。

ですので、今日はあまり詳しくはお話しませんが、イエスのみそばを歩んでいれば、聖書の知識が限られていても、偽りの教えを見分けることができますはずです。

もう 40 年ほど前になりますが、私が主に立ち返り、妻のウェンディがクリスチャンになってまもなく、牧師が招いた講師が教会にやってきました。私たち夫婦はその教えが間違っていると確信しました。

それは、私たちのうちにおられる聖霊によって確信させられたことで、何かがおかしいと感じました。

聖霊は、神のみことばである聖書に矛盾することは決してありません。ですから、何かおかしいと感じたり、偽りの教えではないかと疑念がわいたりするなら、おそらくそうなのでしょう。

## まとめと適用

まとめと適用として、今日いくつかのことを覚えておいてください。

**1. 私たち教会は、教会内部からでも外部からでも偽りの教えがあれば即見分けて対処しなければならない。**

もし疑わしいと思ったら、すぐに牧師に伝えてください。牧師がその件について調査します。懸念したことが結果的になんでもなかったとしても、私は気にしません。ただの誤解の場合もありますし、その懸念が正しい場合もあるからです。

**2. 偽りの教えは必ず大きなダメージを引き起こすものだと覚えておかなければならない。**

偽りの教えは人を神から引き離し、教会に分裂などの不健全な状態をもたらします。偽りの教えや偽りの教師には一歩も引かない姿勢で対処して厳しすぎるということはありません。

**3. 自分自身のきよめと、耳を貸してくれる人に福音を伝え教えることに、すべての信徒が専心すべきである。**

聖霊が私たちの人生に生き生きと働いて支配しておられると、福音を伝えるために私たちを誰かのところへ導かれるか、福音に心を開いている人を私たちのところに送られます。

このふたつは車の両輪のようなもので、主イエス・キリストを救い主として知って愛しているという私たちにとって、非常に大切です。

ここ OIC にいる私たちは、福音に焦点を絞り、自己の聖化ときよめに専心しましょう。

このことについてもっと知るには、リトリートに申し込んでください。

私たちが頭と心で今日のメッセージを消化できますように。神の祝福がありますように。